

第6回二セコ町自治創生協議会 議事概要（案）

<片山町長冒頭挨拶>

地方創生が国を含めて二セコ町でも次のステージに向かっている。本日の自治創生協議会の開催に当たり3点お話したい。

1点目は、二セコ町では住宅不足が課題であり、固定資産税の減免により民間アパートの誘致を進めてきたが、間に合っていないのが現状である。そこで、ドイツのヴォーバン市を参考に環境モデル都市として徹底して環境に配慮した省エネ型のアパートの建設を支援していきたいと思っており、その仕組みを検討している。

2点目は、地域公共交通の課題解決に向けて「ローカルスマート交通」の検討を進めており、町民はもとより、夏冬を通して訪れる観光客の足として、将来的に持続可能なものとするため、観光目的税を財源にするなど、観光地としての魅力を高めていきたい。

3点目は、二セコ町では20年以上前から環境基本計画や景観条例の策定など景観と環境に配慮してきた。しかし、雑誌、テレビなどの報道では外国資本による土地の買占めなど事実に基づかない報道がされている。民間事業者による開発事業の話はあるが、中には断るものもある。二セコ町ではまちづくり基本条例などを理解していただいたうえで、どうやってまちづくりに貢献できるかという視点を持って進めている。また、現在進めている事業では、将来の環境価値を考慮して開発を進めていただいている。

これからは、間違った報道には対抗して、正しい情報を発信していかなければならない。

この自治創生協議会では次のステージに進んだ地方創生として、補助金をもらえるから事業を行うのではなく、これまで培ってきた環境や景観といったことを地方創生と融合させ自治創生として進めていきたいので、ご指導ご協力をお願いしたい。

<小磯座長冒頭挨拶>

これまでの議論を振り返りながら地方創生加速化交付金事業及び総合戦略のフォローアップを議論するとともに、現在進めている二セコ町の取り組みについても皆さんからご意見を頂きたい。

※他用務により片山町長退席

<議事（1）第5回協議会以降の取組状況（報告）>

- これまでの取組状況として、二セコ町自治創生推進本部会議（以下、「本部会議」という。）が平成29年度は開催されていないが、どのような理由からか。（金井オブザーバ）
→本年2月に開催した本部会議において、今後の自治創生として取り組む方向性を示しており、その後の具体的な取組については関係各課と個別に協議しており、本部会議としては開催しておりません。今後については、現在進めております二セコ町ローカルスマート交通の取り組み状況に応じて本部会議を開催する予定です。（馬淵係長）

- まちづくり町民講座など町民の皆さんの意見を聞く機会をたくさん設けておりますが、実際に参加されている方はどのような年齢層の方でしょうか。(平山委員)
 - 町民の皆さんの意見を聞く機会として、積極的にまちづくり町民講座を開催しておりますが、最近は参加者が減ってきているように感じております。参加者の年齢層は働いている現役世代の方が多いと感じております。また、参加されている方は二セコ町へ移住されてきた方が多いように感じております。(馬淵係長)
 - 元々二セコ町に住んでいる方の参加が少なくなってきており、今後、対策が必要な課題であると思っております。(山本課長)
- まちづくり町民講座の開催時間が現役世代に配慮して夕方以降の時間を設定されているが、高齢者等にも参加しやすい時間設定も設けてはいいのではないかと。(平山委員)
 - これまで160回以上開催してきておりいろいろな方法を試してきたが、その中で皆さんの都合がいいだろうと思われる夕方を設定しております。今後もやり方を変えながら行って生きたい。(山本課長)
- 昨年度取り組まれた二セコ町地域経済循環強化戦略について有効活用してほしい。消費の全体的な流れだけの分析ではなく、経済効果を生み出すストック効果についての分析をしている。今回、倶知安町でこの報告書を活用して講演を行う予定である。(小磯座長)

＜議事（2）地方創生加速化交付金事業取組状況＞

- 各事業について目標値を下回っているものがあるが、今後も事業を継続するものについては目標値を変更するのか。(李委員)
 - 各事業についての目標値については、平成28年度末の目標値であるので、今後の各事業の継続に当たっては、二セコ町自治創生総合戦略の目標値を目指すこととなる。(馬淵係長)
- 「二セコエリア誘客に向けた二次交通整備事業」については、事業終了とのことだが、今後については、この後に説明いただく二セコ町ローカルスマート交通構築事業として進めていくということか。(李委員)
 - 本事業は北海道新幹線の新函館延伸に伴い、函館から二セコエリアまでの交通手段を調査するため、バスの運行を行ったもので、調査が完了したことから事業は終了となります。一方、この後説明する二セコ町ローカルスマート交通構築事業については、二セコ町内を対象とした交通体系の最適化を図る事業となりますので、継続事業とはなっておりません。(馬淵係長)
- 二セコエリアの交通事情としては、特に冬場は不足していると感じている。せっかく倶知安町と連携して進めている事業なので、二セコエリア全体として考えるため事業を継続したほうが良いのではないかと。(李委員)
 - 今回の「二セコエリア誘客に向けた二次交通整備事業」は新幹線の開業効果を二セコエリアまで波及させようとバスを運行させた調査を行った事業であり、単年度で終了となったものですが、委員ご指摘の二セコエリア内での交通状況の改善については資料4でご説明いたしますが継続して取組課題としております。(山本課長)

- ・各事業の目標値をKPIとして設定しておりますが、一般的にはKPIはKGIとセットで考えられており、KGIはゴールの指標として、KPIはゴールに向かう課程の指標と思うが、KGIが定められていないと、KPIを達成しても最終的な反省が難しいと思うが、どのように考えているのか。(奥田委員)
 - 各事業についてはゴールを定めることが難しいものであるため、業績評価としてKPIを設定しているものです。(馬淵係長)
- ・国の地方創生の政策では指標としてのKGIを求めておらず、敢えて言えば地方創生の政策の目標は人口減少の歯止めであるので、人口ビジョンの内容を最終的な目標となるだろう。(小磯座長)
- ・「課題解決型自治体アライアンス事業」について、最初の町長の挨拶にもありましたが、環境モデル都市としてドイツのフライブルグ市のヴォーバン地区を参考とするとありますが、ヴォーバン地区の先進的な環境政策すべてを目指すことなのか。(小磯座長)
 - ニセコ町としてヴォーバン地区全体の取り組みを目指すものではなく、クラブヴォーバンという組織があり、そちらに協力いただきヴォーバン地区の取組を参考としているものです。例えば、ニセコ町では住宅不足が課題であります。固定資産税の減免措置でアパートの建設を誘致しておりますが、単なるアパートではなくイニシャルコストは高くなりますが高気密高断熱のアパートの建設を支援することで、将来にわたり省エネルギーで経済が域内で循環することに繋がる取組を検討しております(山本課長)
- ・「ニセコエリア誘客に向けた二次交通整備事業」について、事業のコンセプトは理解できるが、なぜ目標値は観光宿泊客数となるのか。観光で訪れる人が宿泊するとは限らない。(八木委員)
 - 本事業については新幹線の開業効果を狙い、函館からニセコエリアまでのバスを運行し、観光客を呼び込むことと、函館からどのような交通手段でニセコエリアまでくるのかを調査する事業として実施しました。そのため、観光客を呼び込む指標として宿泊者数を設定しました。(山本課長)
- ・「国際リゾートを核としたしりべし「人と仕事のベストミックス」加速化事業」の指標に移住相談件数とあるが、この移住相談にはどのような方が来ているのか。(下田委員)
 - 本事業における移住相談は主に首都圏で開催した移住相談会にお越しいただいた件数となっており、属性としては8割が現役世代で、残り2割がシニア世代となっております。現役世代の相談内容としては、観光地であるニセコ町で働くことや、観光客向けのビジネスを検討している方が主なものとなっております。(馬淵係長)

<議事(3)ニセコ町自治創生総合戦略のフォローアップ>

- ・基本目標1にある「季節雇用と担い手のマッチングのモデルケースの構築」では現時点の数値は1となっているが、これは雇用した人数か。(李委員)
 - この数値はモデルケースとしての事業所の件数です。(馬淵係長)

- 資料の数値の記載について、計画期間中の延べ数のものと単年度のものがあると思うが、資料上では判別できないので工夫が必要と思う。(金井オブザーバー)
→今後は資料の記載方法を工夫いたします。(馬淵係長)
- 今回の配布資料は、項目ごとにどのような事業を行っており、その成果がどのようなものか、特に町外委員に分かりにくい。第5回協議会では、事務局の限られた体制で分かりやすい資料を作成する工夫として、事業実績書を活用する方法を提案した。他の自治体の地方創生の協議会委員を担っている方には、他の自治体ではどのような資料を作成してフォローアップの議論をしているか、ご紹介いただきたい。(金井オブザーバー)
- 私が委員を務めている他の自治体では膨大な資料を添付している例もある。ニセコ町については、説明が不足している資料であるとのことご指摘は否めないところであるが、それよりも大事なことはKPIの検証をしっかりとした議論を経て行われているかだと思う。(小磯座長)
- 自治体の規模によりKPIの項目数に違いがあり、大きな市では項目が多く、小さな町村では項目が少ない。項目数が多いと資料としてまとめることが困難ではないか。それぞれの自治体でやり方が違ってくるものではないか。(李委員)
- 私が委員を務めている他の自治体では、協議会の委員が総合戦略策定時から変更となっているので、新規の委員にも分かるように各KPIに対してプロジェクトがひもづくようになっており、KPIに対してどのように達成するかをA4版2枚程度の分かりやすい資料となっていた。また、別の自治体では総合戦略策定時にKPIの設定を絞り込んで重点化し、KPIの達成より取組の内容を議論するものとなっているものもある。自治体のやり方によって変わるものと思う。(後藤オブザーバー)
- 北海道庁の例では、交付金事業のKPIの効果検証は有識者メンバーで重点的にチェックを行う仕組みを取り入れる効率的なやり方となっている。(小磯座長)
- 基本目標2にある「ニセコこども館の利用者数(放課後子ども教室)」では、目標の50に対して現時点で546となっているが、目標値から大きく上回っているのは単なる「うれしい誤算」なのか、それともこれは1日あたりの目標が50ということで、延べ人数が546なのか。(八木委員)
→この数値は延べ人数となっております。これまで放課後子ども教室は町民センターや公民館で行っていましたが、平成28年度から新築したニセコこども館に場所を移し開催したため、学童保育所に通っている子どもが参加したことから数値が大幅に増えたものです。(馬淵係長)
- それほど活用されているのであれば、観光客の子どもを預かるなどのサービスも考えられるのではないかと。放課後子ども教室は町民以外も利用できるのか。(八木委員)
→現状では町外者の利用は想定しておりません。(山本課長)

<議事(4)ニセコ町ローカルスマート交通構築事業について>

- 平成28年度調査事業の実績としてロードマップ案が示され、その中に課題対応方法案として3点示されているが、全てを行うということか。(李委員)

- 課題対応方法案の全てをやるかどうかは決まっていない。(馬淵係長)
- 状況によっては色々な方法を組み合わせることもあるかと思う。また、今年度の調査で見えてきたこともあり、やはり現状のデマンドバスではニセコ町の道路網が広すぎて間に合っていない状況で、単純にデマンドバスの台数を増やすことではなく、予約の多い路線を定期運行させるなどの方策も考えられる。(山本課長)
- 現状のデマンドバスの料金はいくらか。また、乗車距離に応じて料金を変えることは考えられるのか。(李委員)
- デマンドバスは 1 回の乗車は200円となっている。距離に応じた料金についても、今年度の調査で検討していきたい。例えば観光客と町民で料金に差をつけてはどうかという意見もある。(山本課長)
- 課題対応方法案にある住民運営の有償運送事業の導入については、制度的にすぐに取り組めるものではないと思うが、広い北海道には合っていると感じる。また、課題対応方法案の乗合タクシーについては、制度的に許可が必要なものと思うが。(李委員)
- 乗合タクシーについては、あらかじめ路線等を決めて許可を得る必要があるものです。(馬淵係長)
- デマンドバスの利用状況ではスキー場方面の利用が多いが、町民だけではなく観光客の利用もあるためと思う。デマンドバスのような交通機関は地域の高齢者にこそ必要なものなので、早急に進めていただきたい。(八木委員)
 - タクシーの運転手など季節によって雇用が変動する職種では、夏は農業をしている人が、冬はタクシーの運転手として働けるように斡旋することはできないのか。(八木委員)
- ご質問の様な働き方は実際に行われておりますが、それでも冬期間のタクシー運転手のなり手は少ないのが現状です。(馬淵係長)
- デマンドバスの予約お断り件数が月平均で100件程度あるのに、平均乗車密度が1.7人と少ないのはどのような状況なのか。(奥田委員)
- デマンドバスは、9人載りのワゴン車2台による運行となっており、ニセコ町が東西南北に広がりのある形状のため、市街地から遠い人口が少ない地区への運行が行われる場合に時間はかかるが乗車人数が少ない状況が生まれるため、乗車密度が少ないにお断りが多くなる状況が生まれます。(馬淵係長)
- デマンドバスの運行は予約の先着順となるのか。乗合が多くなるルートへの予約を受付けることとはならないのか。(奥田委員)
- 運行は予約の先着順となる。(馬淵係長)
- デマンドバスの運行行き先として、通院や買物が考えられるが割合としてはどのような状況か。(奥田委員)
- 昨年度の調査では行き先別の割合は調査しておらず、今年度は町民向けにアンケートを実施し、行き先の割合についても分析することとしております。(馬淵係長)
- ローカルスマート交通構築事業では住民の満足度向上を目的としていますが、満足度の向上については、買物に関するニーズに対しては、例えば移動販売を行うなど、デマンドバス以外の方策も検討する広い視点が必要と感じる。(奥田委員)

→昨年度までの事業ではデマンドバスを中心に調査しましたが、本事業は3カ年事業なので、まずは町民に馴染みのあるデマンドバスから調査を行い、JRや路線バスなども含めて検討を行います。(山本課長)

＜全体を通しての意見＞

- 冒頭に町長からお話のあった住宅不足や二次交通は大きな課題と思っている。住宅不足の対策には銀行の立場としてお手伝いしたいと思う。また、新たなアパート建設が進んでいるが入居者は短期の居住者が多いと感じており、今後は移住者に向けての対策が必要と感じる。(葛西委員)
- 資料3に記載のある放課後子ども教室の利用者数については、平成28年度から放課後子ども教室を学童保育所併設のニセコこども館で行っており、本の読み聞かせなどを行うと、学童保育所の児童も一緒に聞くので、実績人数が増えていると思う。実際の放課後子ども教室の利用人数にはなっていないのではないか。(木下委員)
→放課後子ども教室の状況について補足します。平成28年4月にオープンしたニセコこども館は1階が学童保育所、2階が放課後子ども教室の複合施設となっております。これまで放課後子ども教室は町民センターなどの公共施設を利用し少人数で運営しておりましたが、ニセコこども館で実施することとなり、学童保育所の児童と一緒に活動することもあり数字が大きく増えているものと思う。一方、学童保育所も施設を新築したため定員も増やしており、資料3では定員を目標値としているが、実際に学童保育所への登録児童数は70名程度おり、資料の現在値は実際に通っている児童の平均となっております。(林副町長)
- 移住者の視点からの意見ですが、移住には雇用と住宅が最重要課題と思う。雇用については民間企業だけに任せるのではなく、起業を考えている方がチャレンジしやすい風土であることをPRしてはどうか。また、住宅については大きなマンションがたくさん建設されるのはニセコには合っていないと思うので、小規模アパートの建設を支援して、かつ、町内事業者が受注できるような仕組みがあると良いと思う。(奥田委員)
- デマンドバスについて、二次交通の不足により観光客が行きたいところに行けない現状があるので。これまで調査したいろいろな情報を生かした上で、最適な交通手法を検討してほしい。(葛西委員)
- 住宅不足について、最近建設されているアパートはワンルームなど単身者向けが多いので短期で移動してしまう方が多い。今後もニセコに住み続けるためには世帯向けのアパートも必要と思う。(下田委員)
- ニセコ町は北海道の中でも人口が増えており、他の自治体よりは困っていない状況だと思うので、だからこそ余裕をもって他の自治体の模範となる取り組みを行って欲しい。(八木委員)
- デマンドバスについて、子どものスキー場への送迎に利用されている方が多いので、その影響でデマンドバスの方面別利用はスキー場方面への利用が一番多いのかなと思う。この部分を定期路線でバスなどが走ることにより、デマンドバスの利用が緩和されると

思う。(木下委員)

- 地方創生の目的として人口減少を止めることと、地域の稼ぐ力を挙げることもあると思う。銀行の立場として地域に貢献したい。(平山委員)
- 地方創生の課題をクリアするためには単独の自治体だけでは難しいこともあると思う。今回の資料2でいくつかの事業が他自治体と連携して実施しているとの説明があったが、どこの自治体と連携してどのような事業を行ったか資料ではわからないので、次回に向けてもう少し資料の作成を工夫して欲しい。(後藤オブザーバー)
- 地方創生コンシェルジュとして参加している。本制度は困ったことがあったら聞いてくださいという仕組みだが、私は、このような受身の姿勢ではなく、自ら地域に出向き提案するなど攻めの姿勢で務めていきたい。それから、総合戦略のフォローアップの方法については、数値目標で議論するのは限界がある。それよりも、具体的な好事例の形成プロセスを見える化してニセコ町のまちづくりの考え方を学ぶ「自慢大会」の方が、意味があるフォローアップになるのではないかと。また、冒頭の町長挨拶を踏まえると、ニセコとニセコ町を区別した情報発信の重要性が高まっている。本協議会には、情報発信力の高い町外委員も参画いただいている。各委員とも、本協議会の議論を踏まえた情報発信についても積極的に実践をお願いしたい。(金井オブザーバー)
- 資料2の地方創生加速化交付金事業で行った農産物ブランド化戦略研究についてだが、地元の農家が頑張っていてブロッコリーの生産を行っており、ぜひ応援して欲しい。また、今後の可能性としてビーツがニセコ町に合っているのではないかと。ニセコ町には多くの観光客が訪れており、ニセコ町ならではのレストランなど新たな魅力づくりを行っていったらどうかと思う。(李委員)
- 資料2の地方創生加速化交付金事業で行った地域経済循環強化戦略については私も協力して分析作業を行いました。観光産業という区分はなく、観光消費を受けとめる全ての産業が観光産業と見るべき。観光消費の実態は多くの地域産業が恩恵を受けている。10年前と比べるとニセコエリアの観光消費は2.3倍となっており、北海道全体での1.1倍の伸び率と比べると飛躍的に大きい。これだけの観光消費の増加が全ての産業に影響しているという意識を持ってみんなで取り組めばもっと大きな効果が生まれる。(小磯座長)

<議事(5) 今後のスケジュール>

(委員一同)(特になし)